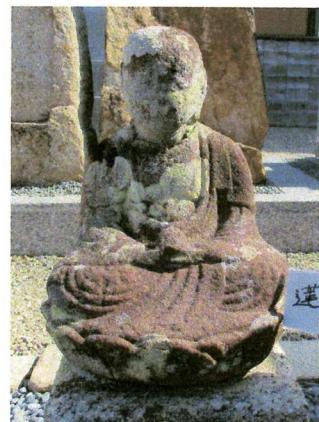
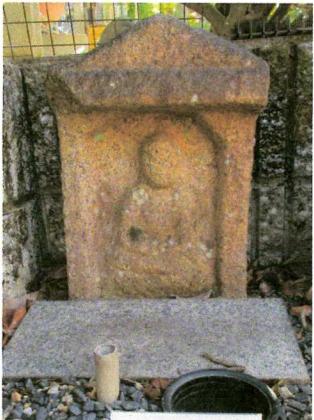


勝部の「お地蔵さん」

調査報告書



勝部の文化伝え隊
歴史文化サロン

勝部の「お地蔵さん」 - 調査報告書 -

はじめに

勝部の文化伝え隊は、勝部の歴史や文化、風俗、習慣等を再発見し、勝部の移り変わりを町内の皆様に伝えることを目的としています。これは平成21年に始まった自治会の高齢化対策の一つとして発足し、勝部歴史文化サロンの名称で活動を続け、平成29年に「勝部史誌」を発刊しました。

その編纂に携わったメンバーは、その後も引き続いて更に勝部の歴史文化を再発見し、他所から転入された方や次代を担う子・孫に継承していくことをめざして活動を続けてきました。その後の成果としては、勝部ガイドマップの制作をはじめ、中世の勝部城郭、勝部と大宝神社の関係、廃寺となった安楽寺の石塔や令和元年に市の文化財に指定された西蓮寺の仏像などの学習があります。

そして、平成30年秋頃から仏像や地蔵菩薩などを研究学習するうちに、勝部に遺る、いわゆる石のお地蔵さんを調べることになりました。ここに、その調査結果をまとめて報告します。

1. 勝部の特色

まず、お地蔵さんが造立されたと思われる時代の概況などを述べてみます。

守山は野洲川の三角州上の沃野に発達してきた農耕地帯にあって、都（京都）に近く、中でも勝部は中山道沿いであることから、各方面の多様な文化の影響を受けてきました。

多くの、いわゆる「石のお地蔵さん」が造立された時期は、一般的に室町時代から江戸時代であると考えられていますので、勝部におけるその当時の様子と、現代の状況を次に述べます。

(1) 特に室町・戦国時代は勝部とその周辺はしばしば戦場になりました。(近江栗太郡志など)

1350年 (正平5) 北朝六角軍と南朝軍が守山で血戦、六角軍が勝利しました。

1468年 (応仁2) 東軍は六角政堯が、西軍の六角高頼の拠る守山城を攻略しました。この守山合戦の戦火をうけて民家は大焼しました。勝部神社境内も戦場となり、兵馬のため神殿大破、神田・神宝を散失しました。

1514年 (永正11) 六角軍が比叡山より出て来て、大萱及び勝部で戦い、伊庭軍を敗りました。

1568年 (永禄11) 六角父子は、種村道成の守山城を羽柴秀吉・池田信輝に攻められて陥落。道成は戦死しました。

1570年 (元亀1) 織田信長は近江通路の経営のため、守山に稻葉一哲、勝部に稻葉貞通、浮気に佐久間信盛等を配置。稻葉貞通は勝部神社を陣所としました。信長方の稻葉一哲と六角一揆連合軍とが、守山南口から繩村にかけての地域を戦場として、斬首1200級に及ぶ激戦を展開。これを守山合戦といいます。

その後も一向宗徒を糾合した一揆軍が六角承禎の軍勢と連合し、金森・守山・浮氣・勝部のほか、湖南の各地に蜂起して戦ったが鎮圧されました。

1572年（元亀3）六角承禎・義治父子は一向宗徒を誘い、金森・三宅の両城に拠って織田信長に反抗しました。

野洲・栗太両郡の土豪惣代が、信長の命により連署して、金森・三宅への出入りをしない旨の起請文を出しました。これら60余通の起請文は、勝部神社神宮寺の宝勝寺に託されました。

信長方の佐久間信盛は、勝部神社を陣所として金森城・三宅城を攻略し、勝利しました。

(2) 江戸時代は守山宿の隣村として多様な文化・宗教を受け入れました。それを象徴して多くの宗派のお寺がありますが、真宗王国と言われる守山の中で、勝部には真宗寺院は一か寺しかありません。真宗寺院が少ないのは、松明のおこないが薬師如来と結びついた神事なので、真宗の教えが広がりにくかったようです。
また、新興の鎌倉仏教各宗派の広がりによって、改宗されたお寺も多くありました。

宝勝寺	平安時代末期に勝部神社の神宮寺（天台宗）として創建されましたが、明治初期に火事で燃えたので廃寺されました。
正福寺	創建は薬師信仰と結びついた松明祭の始まりと関係が深いと伝わります。その後、最明寺の管理下でしたが、昭和期に本尊が盜難にあい、廃寺になりました。
安楽寺	飛鳥時代に創建され、平安時代は勝部神社の奥院でした。江戸時代に天台宗から黄檗宗に改宗されました。その後平成18年には本堂が撤去され共同住宅が建ちましたが、地蔵堂と江戸期の石造物（供養塔、石柱、燈籠）が残っています。
最明寺	鎌倉時代に天台宗寺院として創建されたが、すぐに新興の時宗へ改宗されました。
常願寺	平安時代末期に宝勝寺の道場として創建され、戦国時代は浄土宗で、江戸時代に黄檗宗になりました。
西光寺	平安時代末期に天台宗として開基されたが、その後新たに開宗された浄土宗になりました。
西連寺	時宗。室町時代初期に遊行七代上人によって創建されました。
善福寺	戦国時代に浄土宗の安土淨嚴院の末寺として開基されました。
西福寺	創建は古いが記録を喪失。安土桃山時代に真宗に、江戸中期に真宗仏光寺派に改宗しました。

参考：守山市内の、集落当たりの寺院数および戸数に対する寺院数は、いずれも勝部が最大値を示しています。（明治5年現在、守山史誌歴史編148頁参照）

(3) 守山駅の開設によって、大正期以後、人家が急増しました。

滋賀県市町村沿革史によると、勝部は明治11年には、わずか477人・111戸（内訳

農103戸・工6戸・商2戸)でした。

その後、明治中期以降の河川整備、特に明治45年に国鉄守山駅が開設されて新道の造成、大正期の耕地整理、さらには昭和30年代に始まる工場誘致や住宅建設などによって、田畠・藪や雑種地が掘削され、それ以前から屋敷内に居られたお地蔵さんとは別に、新たに多くのお地蔵さんが見つかりました。

明治6年4月作成の勝部村地券取調総絵図を基に、当時の藪・林やその後改修された川筋・新道を現在の地図に書き加えたものと、現状の地図を比較すると44ページ【図-3】のとおりで、勝部の変化がよくわかります。

(4) 地蔵盆と松明祭（勝部神社の火まつり）

お地蔵さんと言えば地蔵盆ですが、残念ですが地蔵盆の様子は殆んど記録に残っていませんので、古者の話をまとめると次のとおりです。

◇ 昭和35～60年頃

毎年8月23日の地蔵菩薩の縁日に、安楽寺と最明寺の地蔵堂で、お地蔵さんに花・香・供物をお供えしました。

地域の子ども（児童）の世話人さんが、子どもの健やかな成長を願って、子供に楽しんでもらうため色々と趣向をこらしていました。子どもたちは、カレーライスや、お下がりを頂き、楽しく遊んでいました。

安楽寺では人形劇、影絵、金魚すくいなども行われたりしました。

一方で、他のお寺や屋敷のお地蔵さん、火屋墓地のお地蔵さんは、いつもより丁寧に祀られる程度で、特別の行事はなかったようです。

◇ 現 在

平成時代になると昭和時代のような、にぎやかな地蔵盆が行われなくなってしまいました。安楽寺の地蔵盆は、寺が無くなったので行われなくなりました。

一方、最明寺では今でも檀家の若者たちが、付近の子どもたちの無事成長を願って続けられています。集まった二十数人の子どもたちは、カレーライスを頂き、ゲームをして遊んだりしています。

屋敷内や道端にあるお地蔵さんは、宗派とは関係なく、今も大事にする人々によって赤いよだれ掛けとともに、花・ろうそく・線香を供えられているのをよく見かけます。しかし、中にはよだれ掛けもなく、お供えもないものも多くあります。時代の変遷を感じます。

また、勝部には800年を超えて伝わる松明祭（勝部神社の火まつり）があります。これは正福寺の薬師堂（お薬師さん）において、初縁日の一月八日に採火された元火が勝部神社の大松明に奉火されたことが縁起と伝わっています。したがってお地蔵さんと松明祭との関連はありません。

（注）お薬師さん：薬師瑠璃光如来の通称。東方の淨瑠璃世界の教主で、あらゆる病苦を救うとされ、左手に薬壺を持つ。信者は毎月八日に薬師講を開きました。

2. 調査の経緯・目的

勝部歴史文化サロンにおいて、お地蔵さんのが話題になりましたが、その歴史や謂れについて、よく知っている者が居ません。これではいずれ皆から忘却されてしまうのではないかと危惧しました。我われの手で調査をして、記録に留める必要があると思いました。

お地蔵さんにどんな意味があるのか。

多くのお地蔵さんは風化が激しく古びているが、いつ頃造立されたのか。

勝部には、近隣他所に比べてお地蔵さんが多いのではないか。

勝部は他所に比べて寺が多く、また宗派が多いが、このこととお地蔵さんと何か関係があるのか。

などお地蔵さんについていろんな疑問が出たので調査・学習することになりました。

また、実際にお地蔵さんを観察してみると、

地蔵菩薩像は一般的に立像で、右手は与願印または錫杖、左手に宝珠などを持つ姿です。しかし、勝部でお地蔵さんと呼ばれているものは、その殆どが、まるで阿弥陀如来が阿弥陀定印を結んでいる（座禅姿で腹前で両手を組んでいる）坐像として彫られているように見えます。

こんなことから、お地蔵さんについて1基づつ調べることになりました。

3. 調査の方法

調査対象は明治期以前に造立されたと思われる石のお地蔵さんです。「お地蔵さん」とは「路傍や屋敷内に見られる、いわゆるお地蔵さんと呼ばれている小ぶりの石仏」としました。（これは「小型阿弥陀石仏」ともいわれています。）

(1) お地蔵さん個体を1基づつ悉皆調査

1基づつ、地下埋没部分を除く地上部分の寸法（全高・像高・全幅・奥行）を測定し、全体を前面から撮影しました。また、聴き取りができたものは、それを記録しました。

個体の調査は、事前準備を整えて予備調査の後、令和元年8月火屋墓地より初めて翌2年9月まで行い、その後追加調査、文献など調査学習してレポート執筆へと進み、令和3年7月に脱稿しました。

(2) お地蔵さんの文献調査

石のお地蔵さんについては学術的な研究がされてこなかったようで、文献があまり見当たりません。その理由として考えられることは、以下のとおりです。

- ・一般的に石の造立物には、造立年月や施主の名が刻まれていますが、お地蔵さんにはそれらが刻まれていません。
- ・仏師といえば木像や金仏を制作する人を指し、また仏画を描く人を絵師と言いますが、石仏を彫る人は石工と呼び、仏師と呼ぶことは稀です。お地蔵さんには、手の込んだ上質なものもありますが、そうでない素人の手になるようなものもあって、全国を見ても文化財としての調査保護活動は殆んどなされて来なかったようです。

主な参考文献

瀬川欣一著「近江 石のほとけたち」、「近江 石の文化財」など

同氏は 昭和3年(1928年)生れ、郷土史家。日野町役場勤務、日野町教育委員会教育長の傍ら県内の石造文化財を探訪研究されました。

4. 調査の結果

調査の結果を以下の頁に示します。

(1) 【表-1】 勝部のお地蔵さん一覧表		12 頁
(2) 【表-2】 調査結果のまとめ表	個体のデータ	13~25頁
(3) 【図-1】 お地蔵さん所在状況図		26 頁
(4) 【図-2】 お地蔵さん個体の写真		27~43頁
(5) 【図-3】 守山駅開設以前と現在の勝部地図（参考）		44 頁

5. まとめ

調査の結果と、その理由を次のように考えます。

(1) 所在場所による分類

1) 1・2丁目に集中

1・2丁目は中世から人家が集積していました。

お地蔵さんはもともと屋敷内に先祖（子どもを含む）供養のための「詣り墓」として造立されました。よって人家が集積していた1・2丁目に集中しています。

川の傍には水死した子の供養または水難除けとして、路傍には行路の途中で亡くなったり人の供養や通行の安全を願い、村の境界には邪鬼や病魔の入村を阻むものとして、橋のそばのものは橋の流失防止や安全を願い、中には橋脚の一部にされたものもあるらしいが人柱の意味もあったのかも知れません。

それらのお地蔵さんは、わが子の供養や成長を託してお詣りされてきました。

なお、大正7年に現在の「ライズヴィル都賀山」の地に「江州煉瓦株」が大津から移転し、JR線の東側は広範な範囲で田畠が掘削され、粘土層（約30~50cm）が煉瓦の材料として採取されたのですが、この際にお地蔵さんが発掘されたという記録や伝承はありません。やはり人家が集積している地域にお地蔵さんが集中していたのは間違いないありません。

2) お寺に集中

第1項に述べた通り、明治中期以降の耕地整理、河川整備、新道造成や住宅建設などによって、屋敷畠・藪や雑種地が掘削され、それ以前から屋敷内に居られたお地蔵さんとは別に、新たに多くのお地蔵さんが見つかりました。

分家や離れを屋敷内に建てる際などに見つかったお地蔵さんは屋敷内に祀りますが、それ以外に見つかったものは廃棄するわけにもいかないので、いつの間にかお寺に集めてお祀りするようになりました。当家と屋敷内のお地蔵さんとの関係が伝

承されなくなったことも背景にありそうです。その結果、

安樂寺跡には	62基
最明寺には	47基
正福寺跡には	7基
常願寺には	8基
西蓮寺には	27基
西光寺には	19基
善福寺には	22基 ものお地蔵さんが祀られています。

合計192基は、勝部全体273基の70%になります。

なお、西福寺（真宗仏光寺派）は教義上阿弥陀如来が本願にして地蔵尊などの諸仏を信仰の対象とされていないので、寺の境内には祀られていません。

以上、お地蔵さんが現在祀られている場所によってまとめましたが、第1-(1)項で述べたとおり、勝部はしばしば戦場になり人馬に荒らされたことや、他所のことですがお地蔵さんが城垣の一部に使われた例があるように、最初から同じ場所におられるのか、その後移動されたのかは調べようがありません。

(2) 形による分類

1) 方形彫り込み阿弥陀坐像

調査したお地蔵さんは殆んどがこれに当たります。全体が長方形で、像の周囲が彫り込まれています。頂部が平坦なもの（例1）、三角形のもの（例2）、半円形のもの（例3）などがあります。

また頂部が「ひさし」状に前に出ている（例1・2・3）のがほとんどで、これらは供養塔の一種の板碑（石造りの卒塔婆）の頂部形状と同様です。



例1



例2



例3

中には少数ですが、頂部を平らにして箱型の中に長方形を彫り込み、仏を浮彫りにしたもの（例4・5）や、木製の屋根を固定するため頂部のてっぺんに「ほぞ」を設けたもの（例5）も見られます。箱型は棺の形を表していると考えています。



例4



例5

2) 舟形光背彫り出し地蔵立像

火屋墓地入口にある六体地蔵（例6）がこれに当たりますが、数は少ないです。像の半身が彫り出されて浮き出ています。

背面の光背は如来の光背をかたどったもので、舟形は、西国浄土への航行のためと考えられます。



例6

(3) 像による分類

1) 像の数による分類

刻まれた像の数が、1体のものから4体のものまであります。

1体のもの（例7）と2体のもの（例8）が約半数づつあります。3体のものが2基、安樂寺跡には4体のもの（例9）も1基あります。

2体のものは亡くなった両親を供養するためでしょう。

一度に何人をも亡くしたというよりも、周忌に合わせて、亡くなっている肉親の数の阿弥陀仏を刻んだのではなかろうかと考えられています。

瀬川氏は「4体は極めてまれで、県内唯一と思われるものが草津にある」と報告されていますが、安樂寺に1基見られます。よほど珍しいようです。



例7



例8



例9

2) ほとんどが阿弥陀坐像

ほとんどのお地蔵さんには地蔵菩薩像ではなく、阿弥陀仏の坐像が彫られています。にもかかわらず、お地蔵さんと呼ばれるわけを考えてみます。

瀬川欣一氏も理由は判明しませんと断っておられます、同氏の考えをさらに推し進めて次に述べます。

真宗は阿弥陀名号のお軸を本尊とした（注）ので、小型阿弥陀石仏も捨て去られましたが、真宗門徒も地蔵和讃の浸透で地蔵さんの信仰は広がりました。地蔵信仰の対象として、地蔵像を求めるにしても、一般の庶民が新たに木や石の仏像を求めるのは容易ではありません。

一方、地蔵菩薩はいろいろなものに姿をお変えになる（8ページ第7-(1)項参照）ということから、阿弥陀仏にも変貌されます。また年代を経るにしたがい、庶民が阿弥陀像と地蔵像の区別が判らなくなるということもあります。このように考えれば、一旦は排除された小型阿弥陀石仏が、同じものでありながら、お地蔵さんと呼び方が変わっても不思議ではありません。人びとは小型阿弥陀石仏をお地蔵さんと呼んで、赤いよだれ掛けをかけ、花や香をお供えしてわが子の供養や加護をお願い

するようになったと思われます。その背景には、9ページ第7-(2)項に記すように、地蔵信仰＝地蔵和讚の広がりの強さがあったと考えます。

(注) 蓮如は本尊について「木像よりは絵像、絵像よりは名号」をよしとした。その本尊は光明を発した金泥「十字名号・帰命尽十方無碍光如来」ですが、その後山門の弾圧もあって墨書「六字名号・南無阿弥陀仏」に復していきます。(守山市誌 地理編147頁参照)

3) 珍しいものとして五輪塔

五輪塔が刻まれたものが善福寺(例10)と正福寺跡(例11)に見られます。

これはお地蔵さんではなく、「小型五輪塔板碑」に分類される(「近江石の文化財」)こともありますが、ここではお地蔵さんに含めています。



例10



例11

6. 調査を終えて

勝部のお地蔵さんも、研究が進んでいる京都市洛西竹林公園や、多賀町敏満寺遺石の例から、15世紀後半から16世紀を中心に造立されたものと判断してもよいのではないかと思われます。即ち、多くのものは応仁の乱から戦国時代、さらには江戸時代に造立されたと推定します。

お地蔵さんの学習が難しい理由は次の通りです。

(1) お地蔵さんには造立された時の記録(時、人などの)が刻まれていません。

また、発見(出土)や移設された時の記録(場所、時などの)も残されていません。

(2) たいていのお地蔵さんは角が欠けたり、表面に損傷がありますが、これらは風雨による磨滅だけとは思えません。

建立されてからずっとそこにおられるお地蔵さんは少なくて、たいていは場所を移動、しかも勝部では中世に何度も戦場になったことを考えると、何回も移動しているのではないかと思われます。人家や田畠、竹林などのすべてが、戦禍などで荒廃したこと何度も何回かあったかもしれません。(勝部の旧家の歴史もこの頃までしか遡れません。)

(3) お地蔵さんが寺に集積された時期は、多くは昭和の大戦後であり、今ではひな壇状に並べられていますが、このことも各寺の記録に詳しくは残されていません。

今回の調査によって得られた以上の成果は、歴史の専門家の調査によるしか得られないと考えますが、今後郷土の歴史に関心を持ち、隠れた文化を発掘研究する人が現れることを期待したいと思います。

7. 参考

(1) 地蔵信仰（守山市誌 生活・民俗編 第1部第2章より抜粋）

「地蔵」は、わが国では、衆生を救う菩薩として盛んに信仰されました。地蔵菩薩は、釈迦入滅後、弥勒菩薩が出生するまでの無仏の世界に現れて、地獄（六道）の衆生を救済する菩薩といわれています。

日本における地蔵信仰は、奈良時代に地蔵經典が伝來したことになりますが、一般には普及しませんでした。しかし、平安時代になると少しずつ広まり、地蔵菩薩が登場します。現存最古の地蔵菩薩は奈良の広隆寺の地蔵菩薩坐像だといわれています。

地蔵という名称は、「地蔵十輪經」に「安心にして、不動なること大地の如く、静慮深蜜なること秘藏の如し」とあるところから、地と蔵をとって名付けられたといわれています。地獄の觀念が一般化するにつれて、さらに広まり、地獄の苦しみから救済してくれるありがたい菩薩となり、鎌倉時代以降は道祖神信仰や、賽の河原の児童救済などの民間信仰とも関連して、全国の寺院境内や路傍に安置され、大衆の信仰を集めました。

地蔵菩薩は、またさまざまな姿に分身應現して化度するといわれています。「十輪經」では、「閻魔王にもなって法を説く」と書かれていて、閻魔王と地蔵は一体であると考えられています。

「今昔物語」には、お地蔵さんが身代わりとなって、人の姿で田植えをして助ける話があります。「老婆がお地蔵さんにいつもお供えをしていましたが、耕作をする作男が急げて田植えができないので、弱り切ってお地蔵さんにお願いしたところ、翌朝にはすっかり田植えが終わっていた。驚いた老婆は、お地蔵さんの足元をみると泥がついていた」という話です。「今昔物語」にはこのように、お地蔵さんが人助けする話が多く書かれています。そのほか説話が多いことも長く信仰されてきた表れです。（注、「今昔物語」は十二世紀前半の成立と考えられています）

市内の墓地を巡ると、墓地の入口に六地蔵をお祀りしているところが数多くあります。この六地蔵は、地蔵菩薩が六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道の冥界）の衆生を救済するという信仰から、人が死んでも六道の途中で救われるようになると願った信仰によって生まれました。

(2) 地蔵信仰と地蔵和讃（瀬川欣一著「近江 石のほとけたち」P. 176～より抜粋）

地蔵信仰は、室町時代に「地蔵和讃」の大流行によって、より拡がり浸透していきます。特に母親たちを中心とした多くの人々の口に歌われるようになりますと、わが子を亡くした母親たちの信仰を、さらに高めるようになりました。その和讃のあらましを転記します。

これはこの世のことならず
死出の山路の裾野なる
賽の河原のものがたり
聞くにつけても哀れなり
一つや二つや三つや四つ
十（とお）にも足らぬおさな子が
賽の河原に集まりて
父上恋し母恋し

恋し恋しと泣く声は
この世の声とはこと変わり
悲しさ骨身を透すなり

・・・

このような歌詞で「地蔵和讃」という大長編歌謡物語が始まります。つまり十歳までに死んでしまった哀れな幼い子どもたちは、死後の世界で子どものみが行くという賽の河原という荒涼としたところへ送られ、その河原の石を集めながら、

一つ積んでは父のため
二つ積んでは母のため
三つ積んではふるさとの
兄弟わが身と回向して
もみじのような手を合わせ
礼拝するぞおらしや

・・・

こうして子どもたちが回向のための石を毎日毎日積むのですが、
日も入りあいのその頃に
地獄の鬼が表れて
婆婆と思うて甘えるなど、叱り怒鳴り、せっかく積み上げた石を散々に蹴散らしてまうので、

おさな子あまりの悲しさに
その場に座りて手を合わせ
熱き涙を流しつつ
許したまえと伏し拝む

・・・

こうして風の音に父かと思うては駆け、谷の水音に母の声かと馳せ寄るも、走り回る甲斐もなくて泣き叫んでいると、そこへ地蔵菩薩が出てこられます。

今日より後は我をこそ
冥途の親と思うべし
おさなきものを御衣の
袖やたもとに抱き入れて
哀れみ給うぞありがたや

・・・

以上が室町時代中期頃から人びとに唱えられた「地蔵和讃」の概要です。単調な二節ずつを繰り返し、鎗（りん）を振りながら哀調この上ないこの和讃が歌われると、現代の私たちでさえ思わず目頭が熱くなるように思えます。

こうして「地蔵和讃」が流行してから現代までの約500年間、地蔵菩薩の本来の教義にはないままに、子どもを救う仏さまと考えられてきました。愛するわが子を亡くした母親たちは、このように歌われた物語をわが子の真実の苦しむ姿として受け止め、死んだ子の、乳の匂いと唾液の沁み込んだよだれ掛けの匂いを、地蔵さまに嗅いでもらい、「この匂いの子が賽の河原にあります。どうぞこの匂いがするわが子を、大勢の幼子とともに救うて

ください」と、一心不乱の祈りを捧げつつ、その子の生前のよだれの匂いをお地蔵さんに知っていただこうとしたのでした。

こうして、さらに、地蔵は子どもを加護してくださる信仰へと広がりました。近江の国は室町中期に真宗が大いに拡がり、その教義は阿弥陀名号の軸を本尊として、それ以外の諸仏諸尊を排除したのですが、わが子を亡くした母親たちが地蔵菩薩へ継る信仰だけは断ち切ることができず、一村全てが真宗門徒であっても、寺とは別に、教義に反してでも地蔵堂を建て、地蔵盆を行うなど、今日まで地蔵信仰は守られてきました。

また、江戸時代には地蔵信仰は、さまざまな民間信仰の最上位を占め、あらゆる災難を除去し、あらゆる願望を叶えてくださる最も身近な仏として、まさに現世利益そのままの名称が付けられるようになりました。

延命地蔵 腹痛地蔵 目くそ地蔵 子安地蔵 子育て地蔵 帯解子安地蔵 腹帯地蔵
夜泣き地蔵 寝小便地蔵 耳垂れ地蔵 水子地蔵 勝軍地蔵 矢取り地蔵 縄目地蔵
縁きり地蔵 お助け地蔵 身代わり地蔵 油掛け地蔵 水掛け地蔵 鬼門地蔵
ほたる地蔵 . . .

(3) 土葬・火葬の移り変わりと火屋墓地合併の経緯

火葬は、釈迦が火葬されたことから仏教伝来とともに始まり、上級の人達から広まりました。火葬は燃料のまき代にお金がかかりましたので、庶民は土葬にしました。衛生面から村はいずれに墓地（さんまい）を設けて埋葬し、日常はお寺や屋敷内に設けた「詣り墓」にお詣りし、そこに石仏（お地蔵さん、小型の一石五輪塔など）を建立しました。

明治初期、仏教排斥で火葬が禁止された一時期（明治6年7月18日～同8年5月23日）があります。浮気村の墓地は守山駅近くの小字茶ノ木原（現在は道路と住宅地）に在りましたが、村に近く狭隘なことから土葬の余裕がないとして、明治8年2月に火屋墓地に移転合併し、今日におよんでいます。

【表-1】 勝部のお地蔵さん 一覧表

丁目	No.	所 在 地		基 数				
		場 所 (敬称略)		一 体 彫	二 体 彫	三 体 彫	四 体 彫	計
一	1	安樂寺跡	境内北隅	19	42		1	62
一	2	安樂寺跡	地蔵堂	1				1
一	3	小島宅	宅地内		2			2
一	4	KTT駐車場	西側里道		3	1		4
一	5	正福寺跡	境内	3	4			7
一	6	小島宅	宅地内	1				1
一	7	最明寺	境内墓地	18	28	1		47
一	8	山川宅	宅地内	1				1
一	9	小嶋宅	宅地内	1				1
一	10	小島宅	宅地内	1				1
一	53	宝勝寺跡	墓地	1				1
二	12	野々村宅	宅地内	1				1
二	13	櫻井宅	宅地内	1				1
二	14	常願寺	境内	3	5			8
二	15	三品宅	宅地内	1				1
二	16	住吉公園	池端	1				1
二	54	小林宅	宅地内	2	1			3
二	55	野々村宅	宅地内		1			1
二	17	勝部宅	宅地内		1			1
二	18	小林宅	宅地内		1			1
二	19	西光寺	境内墓地	14	5			19
二	20	池田宅	宅地内	1	1			2
二	21	小島宅	宅地内	1				1
二	22	小林宅	宅地内	1				1
二	22	小林宅	道端		1			1
二	23	小林宅	宅地内	1				1
二	24	小林宅	宅地内	1				1
二	25	木村宅	宅地内	1				1
二	26	西蓮寺	境内	14	13			27
二	27	石田宅	宅地内	2	2			4
二	28	善福寺	境内	14	8			22
二	29	橋本宅	宅地内	1				1
二	30	石田宅	宅地内		1			1
二	31	田中宅	宅地内	1	1			2
二	32	安江宅	宅地内	4				4
二	33	櫻井宅	宅地内		1			1
二	34	西福寺	参道門前	2				2
二	35	石田宅	宅地内	1				1
二	36	石田宅	宅地内		1			1
二	37	三亜宅	宅地内	2				2
二	38	石田宅	宅地内	1	2			3
二	40	櫻井宅	宅地内	1				1
二	41	小林宅	宅地内	1				1
二	42	小林宅	道端		2			2
二	43	山中宅	道端	2	1			3
二	44	北川宅	宅地内	2	1			3
二	45	池田宅	宅地内	2	1			3
二	46	山中宅	宅地内	1	1			2
二	47	小林宅	宅地内	1				1
三	48	エルセンター	東側県道端	1				1
四	49	阿村道	道端	1				1
五	50	火屋墓地A,B,C,E区	明治以前造立	3	1			4
五	51	火屋共同墓地	願善堂	1				1
五	52	火屋共同墓地	六体地蔵	6				6
		合 計		139	131	2	1	273

【表-2】勝部のお地蔵さん 調査結果のまとめ表

№1・安楽寺跡の部

石質は、すべてが花崗岩と思われる。

整理No.	大きさ cm				全 体 形状			頂部形状		影込みの特記		体数	影の厚さ	仏の種類	刻像の特徴			記
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部	形状	影込み/ 彫りだし										
安楽1	17	12	25	8	不明	不明	不明	上部も下部も欠損		1	半肉彫り	1	不明	不明	不明	不明	不明	不明
安楽2	16	6	28	14	方形	不明	不明	彫り込み	下部欠損	2	半肉彫り	2	不明	不明	肩から下部欠損	合座より上部欠損	合座より上部欠損	合座より上部欠損
安楽3	24	-	30	16	方形	不明	不明	彫り込み	上部欠損	2	半肉彫り	2	不明	不明	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽4	26	12	22	13	方形	半円	半円	彫り込み		2	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽5	14	13	24	15	方形	半円	半円	彫り込み		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽6	27	22	21	14	光背	不明	彫りだし	上部右角を欠損		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽7	27	16	24	10	方形	不明	彫り込み	頂部の前部を欠損		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽8	24	14	33	14	方形	平坦	平坦	彫り込み	左上部を欠損	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	2像に違いあり
安楽9	26	16	25	14	方形	半円	半円	彫りだし		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽10	28	16	22	15	方形	三角	三角	彫り込み		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽11	29	14	29	13	方形	三角	三角	彫り込み	頂部の前部を欠く	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	頭部の一部が欠損
安楽12	29	15	28	17	方形	三角	三角	彫り込み		1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽13	30	12	28	17	方形	三角	三角	彫り込み		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽14	34	18	25	15	方形	三角	三角	彫り込み	頂部に段がある、上質な造り	1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽15	37	15	32	19	方形	四角錐	彫り込み	頂部に宝珠がある		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭
安楽16	36	16	29	20	方形	三角	三角	彫り込み	彫り込みが深い	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽17	38	16	30	18	方形	三角	三角	彫り込み	頂部が大きい	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭
安楽18	32	19	22	12	光背	不明	不明	彫り込み	上部と左側を欠損	1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	影が深い
安楽19	36	14	28	18	方形	半円	半円	彫り込み		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	二像に違いあり
安楽20	35	15	30	14	方形	平坦	平坦	彫り込み	左上角部を欠損	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽21	40	16	30	18	方形	三角	三角	彫り込み	右側の一部欠損	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽22	40	14	33	17	方形	半円	半円	彫り込み		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭
安楽23	39	16	23	15	やや方形	三角	三角	彫り込み	自然石に左に偏つて彫刻	1	半肉彫り	1	半肉彫り	1	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭
安楽24	42	18	25	16	方形	半円	半円	彫り込み		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	坐像
安楽25	41	14	27	15	方形	三角	三角	彫りだし	側部を欠損	2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭
安楽26	39	16	37	15	方形	平坦	平坦	彫りだし		2	半肉彫り	2	半肉彫り	2	阿弥陀	坐像	坐像	像が不明瞭

整理No.	大きさ cm			全 体			の 特 徴			刻 像 の 特 徴		
	全高	像高	全幅	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	特記	体数	彫の厚さ	仏の種類	立 座	特 記
安樂27	41	17	32	20	方形	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂28	47	14	35	23	方形	鍋蓋	彫り込み 頂部上に四角いデッパリあり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂29	50	13	34	16	方形	平坦	彫り込み 頂部が分厚い	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂30	56	18	37	23	方形	屋根	彫り込み 頂部勾配にソリ、造りが丁寧	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	2像に若干の違いあり
安樂31	50	13	32	20	方形	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
安樂32	17	7	30	16	方形	平坦	彫り込み 下部を欠損	2	半肉彫り	不明	胸から下を欠損	
安樂33	23	18	20	11	舟形光背	-	彫りだし	1	半肉彫り	阿弥陀	不明	
安樂34	24	9	20	11	方形	三角	彫りだし	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
安樂35	28	17	26	15	方形	三角	彫り込み 頂部の一部を欠損	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂36	27	17	27	11	方形	三角	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂37	27	23	20	11	-	-	彫りだし 欠損が大きい	1	-	-	-	欠損が大きい
安樂38	21	9	27	11	方形	不明	彫りだし 下部を欠損	2	半肉彫り	-	-	下部を欠損
安樂39	28	17	31	15	方形	三角	彫り込み 下部を欠損、頂部に彫込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	下部を欠損
安樂40	30	19	23	15	方形	三角	彫り込み 頂部の一部を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂41	26	15	26	17	方形	平坦	彫りだし	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂42	27	15	27	16	方形	半円	彫りだし	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂43	28	16	30	14	方形	平坦	彫り込み 頂部の前部にデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	右像の顔面を欠く
安樂44	30	16	32	16	方形	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂45	29	16	26	15	方形	平坦	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
安樂46	31	15	33	12	方形	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
安樂47	32	15	28	15	方形	三角	彫りだし	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	2像に若干の違いあり
安樂48	29	14	27	12	方形	-	彫り込み 頂部を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂49	35	14	31	15	方形	平坦	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
安樂50	39	15	30	20	方形	半円	彫り込み 頂部の一部を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂51	33	13	31	18	方形	平坦	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂52	37	15	33	21	方形	不明	彫り込み 上部を欠損	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
安樂53	31	15	27	17	方形	三角	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	

整理No.	大きさ cm				全 体 の 特 徴				全 体 の 特 徴				全 体 の 特 徴			
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	彫り込み/ 彫りだし	体数	彫の厚さ	仏の種類	立/座	刻 像 の 特 徴	記		
安樂54	40	16	38	20	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
安樂55	46	14	29	18	方形	不明	彫り込み	頂部の一部を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
安樂56	43	14	28	16	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
安樂57	40	15	31	17	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
安樂58	42	12	25	15	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
安樂59	65	17	46	28	方形	三角	彫りだし	彫りだし	4	半肉彫り	阿弥陀	坐像	4体は珍しい			
安樂60	61	17	37	22	方形	平坦	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
安樂61	50	18	36	20	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	基壇が右上がりの意味？			
安樂62	56	16	35	16	方形	三角	彫りだし	彫りだし	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
No.2地蔵堂 開扉できず未測定					舟形光背	-	彫りだし	彫りだし	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
集計 計62基 平均	34.3	14.8	28.9	16.0	方形	57	三角	20	彫込み48							
					舟形	3	平坦	11	彫だし13							
					その他	2	その他	31	不明	1						
										107	半肉彫	61	阿弥陀	55	坐	55
										その他	1	その他	7	他	7	

№.5・正福寺跡の部

整理No.	大きさ cm				全 体 の 特 徴				全 体 の 特 徴				全 体 の 特 徴			
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	彫込み/ 彫りだし	体数	彫の厚さ	仏の種類	立/座	刻 像 の 特 徴	記		
正福1	30	15	17	15	方形	半円形	彫り込み	左側面と左頂部を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
正福2	19	15	23	11	-	-	彫り込み	上部を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
正福3	44	15	25	12	方形	半円形	彫り込み	両側部を欠く	1	半肉彫り	-	-	像が不明瞭			
正福4	42	18	28	21	方形	屋根	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	-	坐像	像が不明瞭			
正福5	55	29	31	19	方形	屋根	彫り込み	頂部上に四角い座がある	2	半肉彫り	五輪塔	-				
正福6	40	15	27	13	方形	半円形	彫り込み	側部のデッパリがない	2	半肉彫り	-	坐像	像が不明瞭			
正福7	31	15	30	13	方形	平坦	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	右像：阿弥陀 左像：不眞陀	坐像	2像に違いあり・不眞陀			
集計 7基 平均	37.3	17.4	25.9	14.9	方形	6	三角	0	彫込み7	11	半肉彫	7	阿弥陀	3	坐	5
					舟形	0	平坦	1	彫だし0	その他	0	その他	4	他	2	
					その他	1	その他	6	その他0							

№7・最明寺の部

整理No.	大きさ cm			全 体 形状			全 体 特 徴			刻 像 の 特 徴		
	全高	像高	全幅	舟形	頂部形状	彫り込み/ 彫りだし	彫り込み	両側のデッパリがない	彫り込み	仏の種類	立/座	特 記
最明1	42	23	33	15	方形	半円形	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明2	36	22	34	12	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明3	43	19	22	14	方形	半円形	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明4	41	19	28	16	方形	半円形	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明5	37	21	25	14	方形	平坦	彫り込み	頂部の前部にデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 頭が面長
最明6	42	13	26	18	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明7	45	14	33	12	方形	平坦	彫り込み	頂部に突起あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明8	43	14	33	17	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明9	42	13	34	18	方形	半円形	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明10	31	15	29	13	方形	平坦	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明11	33	17	28	14	方形	平坦	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明12	25	15	30	16	方形	平坦	彫り込み	頂部の前部にデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明13	39	16	24	21	方形	三角	彫り込み	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明14	34	16	27	13	方形	平坦	彫り込み	両側のデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が右に片寄り・不明瞭
最明15	23	16	22	10	方形	平坦	彫り込み	頂部の前部にデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明16	34	12	26	13	方形	三角	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明17	33	14	26	13	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明18	31	12	27	13	方形	半円形	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明19	48	16	43	20	方形	三角	彫り込み	両側のデッパリがない	3	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明20	50	17	30	23	方形	屋根	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明21	48	18	31	17	方形	三角	彫り込み	頂部の前部に突起あり	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明22	37	16	28	19	方形	半球	彫り込み	頂部の前部に突起あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
最明23	33	24	27	8	方形	平坦	彫り込み	頂部の前部にデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 頭部が大きい
最明24	37	12	27	14	方形	三角	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最明25	36	15	25	14	方形	-	彫り込み	頭部より上を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
最25-1	29	14	29	11	方形	平坦	彫り込み	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像

整理No.	大きさ cm			全 体			の 特 徴			像 の 特 徴		
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	彫込み/ 彫りだし	彫込み/ 彫りだし	彫の厚さ	仏の種類	立/座
最明26	38	17	31	15	方形	三角	彫り込み	頂部	デッパリ左隅を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀
最明27	35	13	29	13	方形	三角	彫り込み	頂部	に線刻あり	2	半肉彫り	阿弥陀
最明28	21	14	30	12	方形	平坦	彫り込み	頂部	上に突起あり、前部にデッパリなし	2	半肉彫り	阿弥陀
最明29	23	13	22	13	方形	半円形	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
最明30	33	18	23	12	方形	-	彫り込み	頭部	より上を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀
最明31	36	23	27	10	方形	平坦	彫り込み	頂部	の前部にデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀
最明32	35	15	31	15	方形	三角	彫り込み	両側	のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀
最明33	46	19	25	15	方形	三角	彫り込み	両側	のデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀
最明34	35	16	25	15	方形	三角	彫り込み	両側	のデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀
最明35	32	14	25	15	方形	半円形	彫り込み	-	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀
最明36	28	17	29	12	方形	平坦	彫り込み	頂部	の前部にデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀
最明37	33	14	22	13	方形	平坦	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
最明38	32	16	29	17	方形	平坦	彫り込み	-	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀
最明39	31	15	28	14	方形	-	彫り込み	頭部	より上を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀
最明40	30	16	25	13	方形	平坦	彫り込み	両側	のデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀
最明41	29	13	28	9	方形	三角	彫り込み	-	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀
最明42	37	18	30	19	方形	三角	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
最明43	34	20	27	18	方形	屋根	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
最明44	40	19	37	18	方形	屋根	彫り込み	屋根	の前部左隅を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀
最明45	40	17	27	18	方形	平坦	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
最明46	38	17	23	12	方形	三角	彫り込み	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀
集計					方形 47	三角 17	彫込み 47			77	半肉彫 47	阿弥陀 46
平均					舟形 0	平坦 16	彫だし 0				その他 1	その他 0
											その他 14	その他 0

No. 14・常願寺の部

整理No.	大きさ cm			全 体 の 特 徴			刻 像 の 特 徴			体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特記
	全高	像高	全幅	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	頂部左の崩れ大	阿弥陀	坐像					
常願1	27	12	22	13	方形	半円形	彫り込み	頂部左の崩れ大	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願2	28	19	24	16	方形	平坦	彫り込み	箱状の中に刻像、頂部上左に突起あり	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願3	34	18	23	12	方形	半円形	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願4	38	15	26	16	方形	半円形	彫り込み	頂部の崩れ大	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願5	36	15	26	17	方形	平坦	彫り込み	面側のデッパリがない	2	半肉彫り	—	—		
常願6	38	15	25	16	方形	半円形	彫り込み	面側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願7	39	15	28	17	方形	半円形	彫り込み		2	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
常願8	42	17	32	19	方形	三角	彫り込み	頂部前部の崩れ大	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
集計 計 8基 平均	35.3	15.8	25.8	15.8	方形 舟形 その他	8 0 0	三角 平坦 その他	1 2 5	13	半肉彫 彫込み 彫だし その他	8 0 0 0	阿弥陀 その他 1 1	坐 その他 1 1	

No.19・西光寺の部

整理No.	大きさ cm				全 体 形状				影込みの 特 徴				刻 像 の 特 徴			
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	影込み/ 影りだし	影込み/ 影りだし	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特記	特記	特記	特記
西光1	23	18	16	12	-	三角	影りだし	円柱状、崩れが大きい	1	半肉影り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
西光2	23	12	23	14	方形	半円形	影り込み	胸部より下を欠く	1	半肉影り	-	-	像が不明瞭			
西光3	26	19	20	15	-	半円形	影り込み	01に似るが扁平状、腰下を欠く	1	半肉影り	-	-				
西光4	29	13	20	9	方形	平坦	影り込み	両側のデツノパリがない	1	半肉影り	-	-	像が不明瞭			
西光5	28	15	22	13	方形	半円形	影り込み	両側のデツノパリがない	1	半肉影り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
西光6	38	16	24	13	方形	三角	影り込み	頂部が大きい、崩れあり	1	半肉影り	阿弥陀	坐像				
西光7	34	16	31	15	方形	平坦	影り込み	四角い箱状の中に刻像、頂部中央に突起あり	2	半肉影り	-	-	像がまったく不明瞭			
西光8	35	25	29	15	方形	平坦	影り込み	四角い箱状の中に刻像、頂部の欠損大	1	半肉影り	阿弥陀	坐像	像がまったく不明瞭			
西光9	35	22	22	13	方形	平坦	影り込み	両側のデツノパリがない	1	半肉影り	-	-	像がまったく不明瞭			
西光10	30	14	21	13	方形	三角	影り込み	両側のデツノパリがない	1	半肉影り	-	-	像がまったく不明瞭			
西光11	34	13	20	12	-	-	影り込み	頭部より上を欠く	1	半肉影り	-	-	像が不明瞭			
西光12	29	17	20	11	方形	三角	影り込み	両側のデツノパリがない	1	半肉影り	阿弥陀	坐像	肩より下が不明瞭			
西光13	40	15	26	15	方形	三角	影り込み		2	半肉影り	阿弥陀	坐像				
西光14	43	15	20	13	方形	三角	影り込み	頂部が大きい	1	半肉影り	-	-	像がまったく不明瞭			
西光15	44	15	23	16	方形	半円状	影り込み	頂部が大きい	1	半肉影り	阿弥陀	坐像				
西光17	63	32	30	22	方形	屋根	影り込み	西光寺内では最大級	2	半肉影り	-	立像	地蔵像と童子像か?			
西光18	52	13	23	11	方形	三角	影り込み		1	半肉影り	-	-	像がまったく不明瞭			
西光19	45	14	29	15	方形	半円形	影り込み		2	半肉影り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
西光20	42	17	29	15	方形	平坦	影り込み	箱状の中に刻像、頂部中央に突起あり	2	半肉影り	阿弥陀	坐像				
集計									24	半肉影 19 舟形 0 平均 36.5 計19基	阿弥陀	9	坐	9		
平均									その他 0	その他 10	他	10				

No.26・西蓮寺の部

整理No.	大きさ cm			全 体 形状			頂部形状		影込み/影りだし		特記	刻像の厚さ	仏の種類	立/座	特徴記	
	全高	像高	全幅	舟形	方形/舟形	方形	-	-	半円形	彫り込み	面側のテッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	
西蓮1	28	12	18	14	方形	-	半円形	彫り込み	面側のテッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮2	32	24	29	10	-	-	彫り込み	背部の原型は不明	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮3	36	26	21	10	-	-	半円形	-	円柱状、崩れが大きい	1	半肉彫り	-	-	像がまったく不明瞭		
西蓮4	31	11	30	11	方形	-	半円形	彫り込み	首より上部が欠損	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮5	32	14	23	16	方形	-	半円形	彫り込み	右上部が大きく欠損	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮6	32	14	29	13	方形	-	半円形	彫り込み	右側面に欠損あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮7	29	13	27	14	方形	-	平坦	彫り込み	右側面に欠損あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮8	32	12	27	17	方形	-	半球形	彫り込み	頂部が大きい	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮9	30	13	24	14	方形	-	半円形	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮10	32	14	25	15	方形	-	三角	彫り込み	背部の原型は不明	1	半肉彫り	五輪塔	-			
西蓮11	40	25	27	12	-	-	彫り込み	背部の原型は不明	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮12	39	13	28	16	方形	-	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮13	30	18	24	16	方形	-	半円形	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮14	31	14	28	12	方形	-	半円形	彫り込み	側部のテッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮15	39	18	27	15	方形	-	三角	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮16	39	17	25	15	方形	-	平坦	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮17	45	16	32	20	方形	-	平坦	彫り込み	側部のテッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮18	45	15	29	16	方形	-	彫り込み	頂部の崩れが大きい	2	半肉彫り	-	-	上(頭)部が大、何の像かが不明			
西蓮19	49	15	33	17	方形	-	平坦	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
西蓮20	38	17	30	12	方形	-	平坦	彫り込み	四角い箱状の中に刻像、頂部に欠損あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮21	36	22	25	12	方形	-	平坦	彫り込み	彫り込みがトンネル状、頂部がない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮22	42	16	29	25	-	-	-	彫り込み	右上部が欠損	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮23	20	16	24	23	-	-	-	彫りだし	胸部より上を欠く	1	丸彫り	-	-	坐像		
西蓮24	47	13	25	18	方形	-	半円形	彫り込み	側部のテッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮25	56	20	34	18	方形	-	屋根型	彫り込み	彫り込みがトンネル状	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像			
西蓮26	93	74	48	22	舟形	-	彫り込み	-	1	半肉彫り	地蔵	立像				
西蓮27	39	30	27	24	-	-	彫りだし	衣のひだも影つてある	1	丸彫り	地蔵	坐像				
集計					方形 20	三角 3	平坦 6	彫込み 24		40	半肉彫り	阿弥陀	坐	23		
基					舟形 1	その他 6	その他 6	彫だし 2		40	丸彫り	2	その他	6	他 4	
平均	38.6	19.0	27.7	15.8	その他 6	その他 18	その他 1									

墓地内

№28・善福寺の部

整理No.	大きさ cm			全 体 形状			影込みの 特 徴			刻 像 の 特 徴			
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	影込み/ 彫りだし	特 記	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特 徴
善福1	18	11	24	10	方形	平坦	彫り込み	下部が大きく欠損	1	半肉彫り	-	-	像がまったく不明瞭
善福2	30	16	28	15	方形	平坦	彫り込み	頂部に庇がない	1	半肉彫り	-	坐像	像がまったく不明瞭
善福3	27	17	25	14	方形	平坦	彫り込み	頭部に突起あり、頂部に庇がない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像がまったく不明瞭
善福4	33	25	27	14	方形	平坦	彫り込み	四角い箱状の中に刻像	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	頭部が大きい
善福5	34	15	25	17	方形	三角	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福6	33	15	24	16	方形	三角	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福7	34	13	22	14	方形	三角	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像がまったく不明瞭
善福8	24	11	24	15	方形	半円形	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福9	22	14	30	15	方形	平坦	彫り込み	頂部に庇がない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福10	23	-	24	12	方形	-	彫り込み	上部が欠損	2	半肉彫り	-	-	像がまったく不明瞭
善福11	29	18	20	11	方形	三角	彫り込み	両側のデッパリがない	1	半肉彫り	-	-	像がまったく不明瞭
善福12	29	18	21	11	方形	平坦	彫り込み	頂部に庇がない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福13	30	23	28	13	-	-	彫り込み	上部が円形	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福14	18	3	28	13	方形	三角	彫り込み	下部を欠く	2	半肉彫り	-	-	像がまったく不明瞭
善福15	33	13	25	13	方形	半円形	彫り込み		2	半肉彫り	五輪塔	-	屋根の庇の反りが大きい
善福16	24	14	30	16	方形	平坦	彫り込み	両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福17	56	35	32	18	方形	半円形	彫り込み	両側のデッパリがない	1	半肉彫り	-	立像	像が不明瞭
善福18	24	13	24	12	方形	三角	彫り込み	下部を欠く、両側のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福19	23	13	19	13	方形	三角	彫り込み	足より下を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福20	19	13	21	14	方形	平坦	彫り込み	合掌より下を欠く	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福21	25	13	21	14	方形	半円形	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
善福22	39	16	31	15	方形	平坦	彫り込み	左上角を欠く、頂部に庇がない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像がまったく不明瞭
集計					方形 21 舟形 0 その他 1	三角 7 平坦 9 その他 6	彫込み 22 彫だし 0	全体に崩れが大きいものが多い	30	半肉彫 22 阿弥陀 15 その他 0	坐 16 他 6	その他 7	像がまったく不明瞭
計22基 平均	28.5	15.0	25.1	13.9									

№.34・西福寺の部

整理No.	大きさ cm				全 体 形状				全 体 の 特 徴				記	
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	彫り込み/ 彫りだし	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特 徴	
西福1	23	12	23	23	方形	平坦	彫り込み	-	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
西福2	60	21	20	17	方形	三角	彫り込み	頂部が横幅よりも高い	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が左に傾斜している	
集計 平均	41.5	16.5	21.5	20.0	方形 2 舟形 0	三角 1 平坦 1	彫込み 2 彫だし 0		2	半肉彫 2 その他 0	阿弥陀 2 その他 0	坐 2 他 0		

№.50・火屋墓地の部

整理No.	大きさ cm				全 体 形状				全 体 の 特 徴				記	
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	彫り込み/ 彫りだし	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特 徴	
Ⓐ59-1	31	21	24	15	方形	平坦	彫り込み	庄なし、彫込み上部が半円形	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
Ⓐ59-2	25	16	19	12	方形	不明	彫り込み	庄なし、崩れ大	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像		
Ⓑ16	38	16	30	14	方形	三角	彫り込み	両側のデッパリを欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	崩れ大	
Ⓑ31	24	12	21	14	方形	三角	彫り込み	下部を欠く、崩れ大	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	ひざ以下を欠く	
№.51 賴善堂	73	56	50	50	-	-	-	丸彫り	1	丸彫り	地蔵	坐像	如意宝珠を持つ	
火六1	62	34	35	20	舟形光背	-	彫りだし	下部右側の一部を欠く	1	半肉彫り	地蔵	立像	合掌姿	
火六2	62	33	35	22	舟形光背	-	彫りだし	-	1	半肉彫り	地蔵	立像	右手に錫杖の姿	
火六3	73	41	34	18	舟形光背	-	彫りだし	-	1	半肉彫り	地蔵	立像	右手に錫杖の姿	
火六4	68	34	40	11	舟形光背	-	彫りだし	-	1	半肉彫り	地蔵	立像	右手に錫杖の姿	
火六5	68	37	39	20	舟形光背	-	彫りだし	-	1	半肉彫り	地蔵	立像	右手に錫杖の姿	
火六6	36	16	29	20	舟形光背	-	彫りだし	二重円光、蓮台が認められる	1	半肉彫り	地蔵	立像	前に手、持ち物不明	
集計 基 平均	46.7	26.3	29.7	18.0	方形 4 舟形 6 その他 1	三角 2 平坦 1 その他 8	彫込み 4 彫だし 6 丸彫り 1		5	半肉彫 10 丸彫り 1	阿弥陀 4 地蔵 7	坐 5 立 6		

火屋墓地には、この他に明治期以降のものと思われるお地蔵さんが24体あります。

一丁目の部

整理No.	大きさ cm			全 体 形状			影込みの 特 徴			刻 像 の 特 徴				
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	影込み/ 彫りだし	特記 (縁者の話)	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特記	
小島宅	3-1	53	15	33	22	方形	屋根	彫り込み 頂部に宝珠状の突起あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
小島宅	3-2	46	15	33	15	方形	半円形	彫り込み 座の右端に欠損あり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
K T T 駐車場横	4-1	18	-	35	7	-	-	彫り込み 上部が大きく欠損	3	-	-	-	像が不明瞭	
小島宅	4-2	33	15	31	20	方形	半円形	彫り込み 最頂部に突起状のトンガリあり	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
小島宅	4-3	35	16	33	17	方形	三角	-	彫り込み 頭部より上が欠損	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
小島宅	4-4	30	16	35	12	方形	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
小島宅	6	29	15	22	12	方形	三角	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
山川拓	8	33	15	23	12	方形	半円形	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	
小島宅	9	36	27	29	13	舟形	半円形	彫り込み テッパリなし	1	半肉彫り	地蔵	立像	右手に錫杖を持つ	
小島宅	10	33	16	26	11	方形	-	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像がまったく不明瞭	
宝勝寺跡	宝勝53	16	11	26	14	-	-	彫り込み 上部と下部が欠損	1	半肉彫り	-	-	-	
集計	計11基	32.9	14.6	29.6	14.1	方形 舟形 その他	9 1 1	半円 三角 その他	4 2 5	彫込み11 彫込み11 その他0	阿弥陀 阿弥陀 その他	9 8 1	坐像 坐像 其他2他3	像が不明瞭
平均														

23

二丁目の部

整理No.	大きさ cm			全 体 形状			影込みの 特 徴			刻 像 の 特 徴			
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	影込み/ 彫りだし	特記 (縁者の話)	体数	影の厚さ	仏の種類	立/座	特記
野々村宅	1-2	36	16	25	11	方形	平坦	矩形彫込み深さ 3cm	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭、影が薄い
櫻井宅	1-3	49	16	22	16	方形	三角	彫り込み 左頂部が大きく欠損、風化が激しい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
三品住宅	1-5	38	23	25	7	舟形	半円形	彫り込み 昭和38年頃宅地造成時出土	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
住吉公園	1-6	36	19	25	12	方形	平坦	彫り込み 風化が激しい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
勝部宅	1-7	32	12	21	11	方形	三角	彫り込み 肩が浅く、デッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
小林住宅	1-8	16	15	30	13	方形	平坦	彫り込み 文より幅が大、東町の屋敷田から移転	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
池田宅	2-0-1	40	15	29	11	方形	平坦	彫り込み 座・面側デッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭
2-0-2	42	20	21	13	方形	平坦	彫り込み 影が浅く、デッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭	頭部が大きい
小島宅	2-1	46	24	27	13	方形	平坦	彫り込み 矩形彫込み深さ 4cm	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭

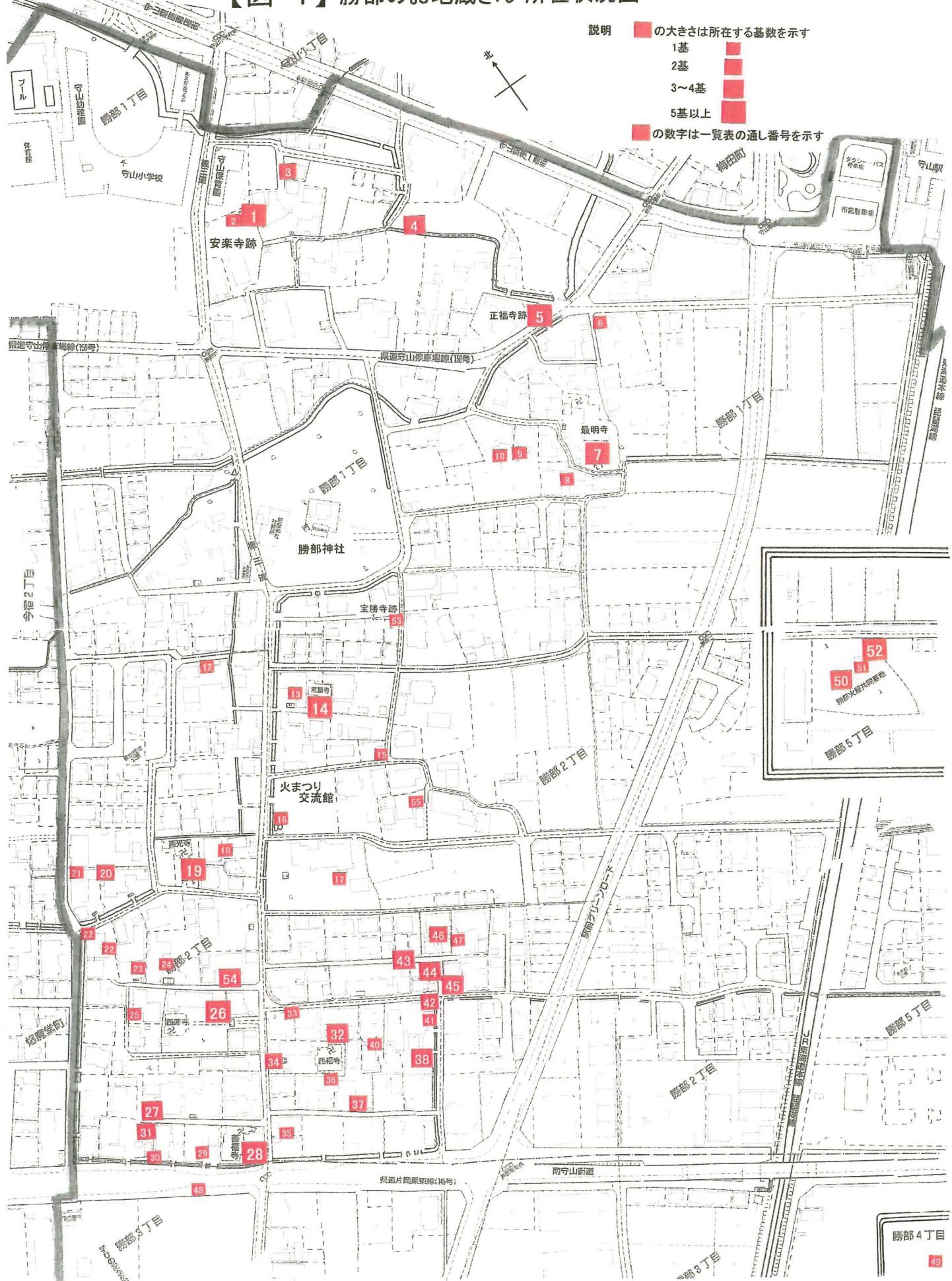
整理No.	大きさ cm	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	全 体 の 特 徴	特 記 (縁者の話)	彫り込み/彫りだし	彫り込み	彫り込み/彫りだし	彫り込み	彫の厚さ	仏の種類	立/座	特 記
小林 宅	2 2-1	34	21	23	10	方形	平坦	彫り込み	庇右欠損、両側のデッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	肩以下が欠落			
小林 道端 家	2 2-2	46	16	35	13	-	-	彫り込み	上部を欠く、風化が大、車が当たり川に転落	2	半肉彫り	-	坐像	像が不明瞭			
小林 家	2 3	40	17	24	15	方形	半円形	彫り込み	庇が二段で大きい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
小林 宅	2 4	40	18	27	11	方形	三角	彫り込み	彫込みが半円状	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
木村 宅	2 5	37	18	23	12	方形	平坦	彫り込み	矩形の彫込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像の彫は厚い			
	2 7-1	31	13	29	17	方形	三角	彫り込み	台座より下を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
石田 宅	2 7-2	21	14	33	16	方形	三角	彫り込み	像の中ほどより下を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
石田 宅	2 7-4	46	19	28	13	方形	三角	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
	2 7-5	47	16	24	9	舟形	半円形	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
橋本 家	2 9	38	12	27	12	方形	平坦	彫り込み	彫が浅く、デッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
石田 宅	3 0	36	16	21	15	-	-	彫り込み	像の周囲が欠損か	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
田中 宅	3 0-1	42	16	25	16	方形	三角	彫り込み	半円形の彫込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
3 0-2	30	14	23	11	方形	三角	彫り込み		2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	二体が非対称				
	3 2-1	33	23	27	12	方形	平坦	彫り込み	屋敷内のおにあつたのを集めた	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
安江 宅	3 2-2	34	16	23	16	方形	三角	彫り込み	同上	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
3 2-3	32	17	18	14	方形	三角	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像					
	3 2-4	36	15	35	12	方形	半円形	彫り込み	同上、左半分は、像には見えない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
櫻井 宅	3 3	51	17	33	9	方形	三角	掘り込み	欠けが少なく端正	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
石田 宅	3 5	36	15	23	11	方形	平坦	彫り込み	彫が浅く、デッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
石田 宅	3 6	38	14	26	14	方形	三角	彫り込み	デッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
三鶴 宅	3 7-1	43	20	33	18	方形	平坦	彫り込み		1	半肉彫り	阿弥陀	坐像				
	3 7-2	37	18	24	13	方形	三角	彫り込み	頂部に刻線。人に言われて大川から移転。	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	彫りが丁寧			
石田 宅	3 8-1	24	17	33	13	方形	平坦	彫り込み	左右のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	彫りが丁寧。二体の表情に違いあり			
	3 8-2	27	15	22	15	方形	三角	彫り込み	像面、前面が欠損	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	二体が非対称			
	3 8-3	37	20	23	8	方形	半円形	彫り込み		2	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
櫻井 宅	4 0	41	12	22	11	方形	平坦	彫り込み	彫が浅く、デッパリがない	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			
小林 宅	4 1	45	16	24	11	方形	半円形	彫り込み	地蔵盆(3日間)は応接間で祀る	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像	像が不明瞭			

整理No.	大きさ cm			全 体 の 形 状			特 徴			像 の 特 徴		
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	特 記 (縁者の話)	体数	彫の厚さ	仏の種類	立/座 特 記
小林 道端	4.2-1	47	17	27	15	方形	平坦	彫り込み 左デッパリ部を欠く	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 右像は不明瞭
	4.2-2	47	19	26	13	方形	平坦	彫り込み	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 右像は不明瞭
山中 道端	4.3-1	35	14	26	10	方形	三角	彫り込み 欠けが多い	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像は不明瞭
	4.3-2	38	15	19	11	方形	三角	彫り込み 左右のデッパリがない	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
	4.3-3	38	12	21	16	方形	平坦	彫り込み 欠けが多い	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像は不明瞭
北川 宅	4.4-1	48	15	28	14	方形	三角	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像は不明瞭
	4.4-2	37	17	24	9	方形	平坦	彫り込み 欠けが多く丸みをおびる	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像は不明瞭
	4.4-3	51	21	20	14	円筒形	円錐状	掘り込み 自然石に刻像したものらしい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像は不明瞭
池田 宅	4.5-1	21	15	25	13	方形	三角	彫り込み 屋敷内にあつたのを集めた	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像がやゝ不明瞭
	4.5-2	39	15	32	16	方形	三角	彫り込み 同上	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像がやゝ不明瞭
	4.5-3	36	19	25	16	方形	三角	彫り込み 同上、頂部に段をつけ、造りが丁寧	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像
山中 宅	4.6-1	41	28	27	12	舟形	半円形	彫り込み 欠けが多く丸みをおびる	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 頭が大きい
	4.6-2	58	17	32	20	方形	半円形	彫り込み 幅が狭い	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
小林 宅	4.7	38	17	15	10	方形	三角	彫り込み	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 立像のようにも見える
	5.4-1	40	15	26	14	-	-	彫り込み 欠損大きく、不詳	-	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
小林 宅	5.4-2	42	18	35	13	方形	三角	彫り込み 風化のためか影が浅い	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像がやゝ不明瞭
	5.4-3	36	15	33	17	-	-	彫り込み 欠損大きく、不詳	-	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
野々 村宅	5.5	33	19	32	12	方形	平坦	彫り込み 影が深い、頂部中央に丸い突起	2	半肉彫り	阿弥陀	坐像
集計	計54基					方形 46 舟形 3	半円 8 三角 22	彫込み54 全体に崩れが大きいものが多い	72	半肉彫 52 その他 2	阿弥陀 51 その他 3	坐 52 他 2
平均	38.2	16.9	26	12.9	その他 5	その他 24	その他 0					

三～六丁目の部

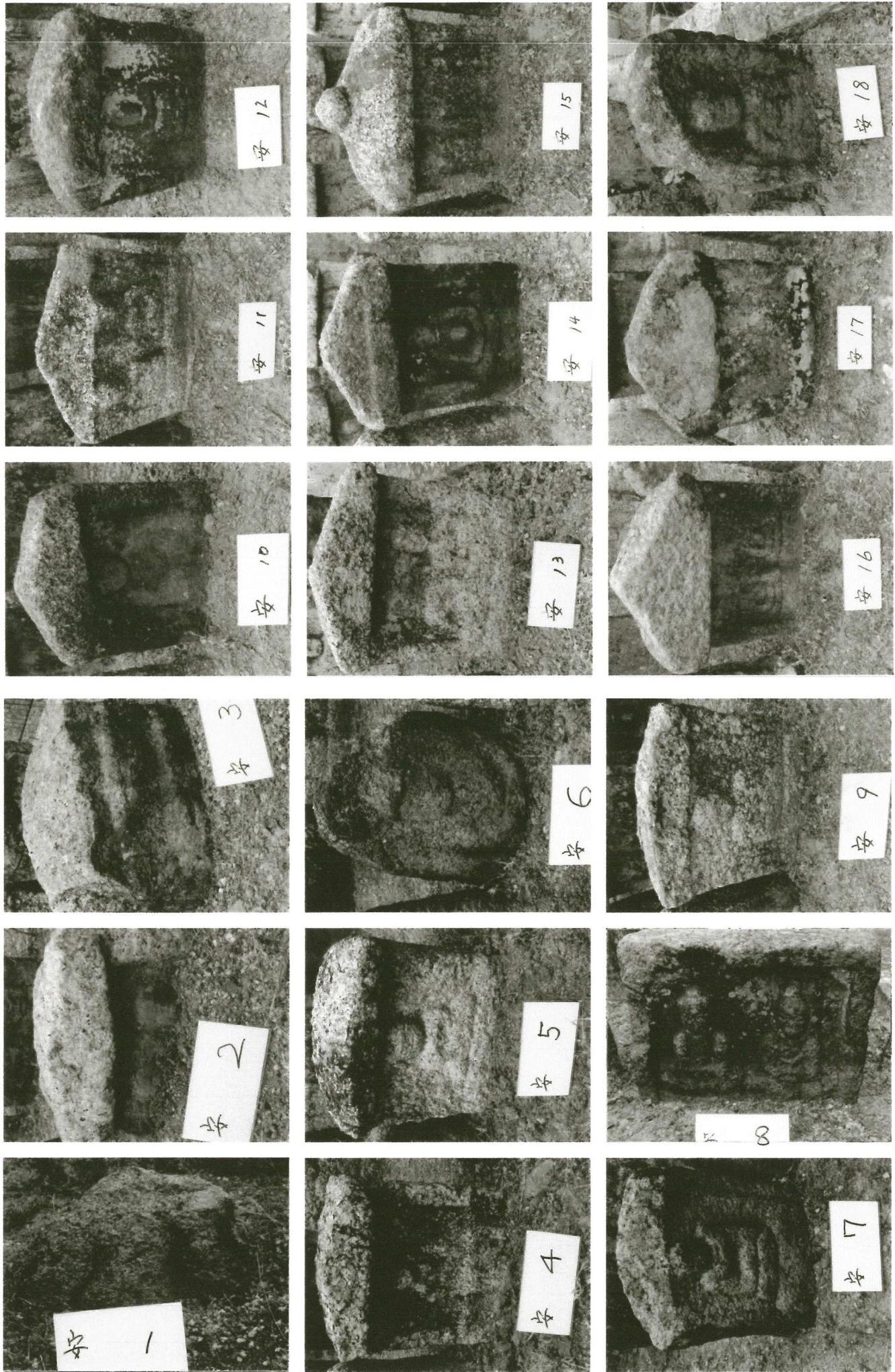
整理No.	大きさ cm			全 体 の 形 状			特 徴			像 の 特 徴		
	全高	像高	全幅	奥行	方形/舟形	頂部形状	彫込み/ 彫りだし	特 記 (縁者の話)	体数	彫の厚さ	仏の種類	立/座 特 記
江戸 道	4.8	38	15	25	11	方形	三角	彫り込み 縦に割れている。風化激しい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
阿村 道	4.9	32	13	22	14	方形	三角	彫り込み 風化激しい	1	半肉彫り	阿弥陀	坐像 像が不明瞭
集計	平均	35.0	14.0	23.5	12.5	方形 2 舟形 3	半円 0 三角 2	彫込み 2 全体に崩れが大きいものが多い	2	半肉彫 2 その他 2	阿弥陀 2 その他 2	坐 2 他 2

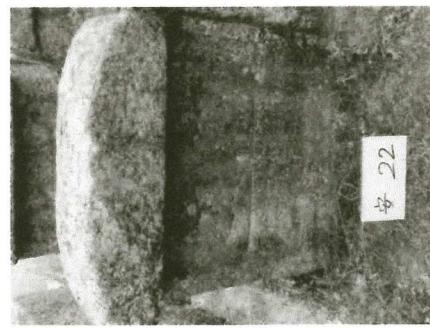
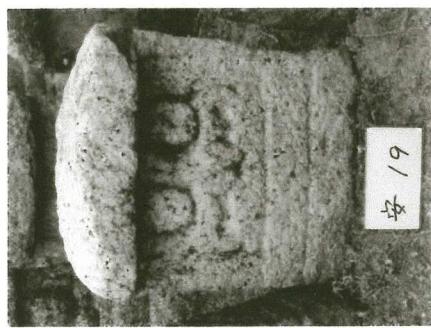
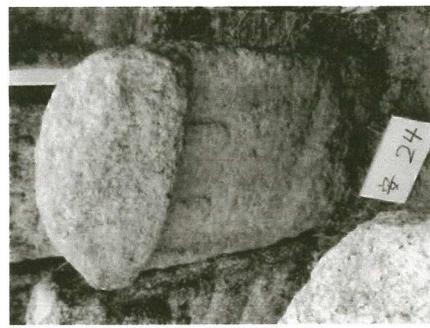
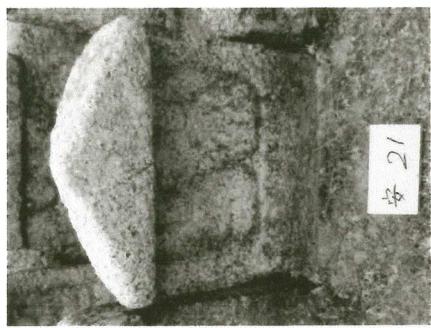
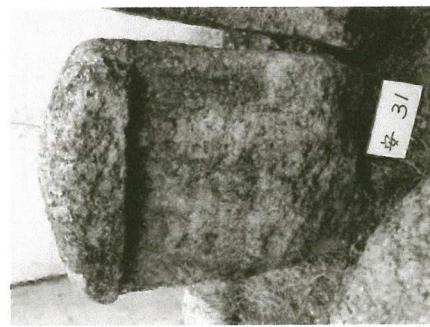
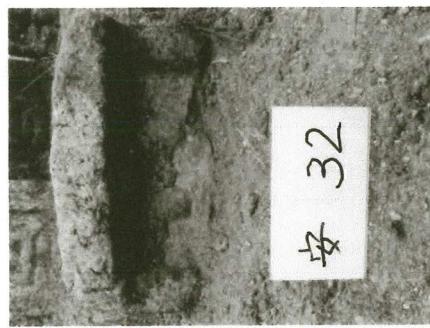
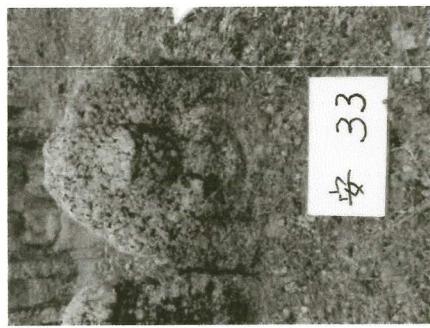
【図-1】勝部のお地蔵さん 所在状況図

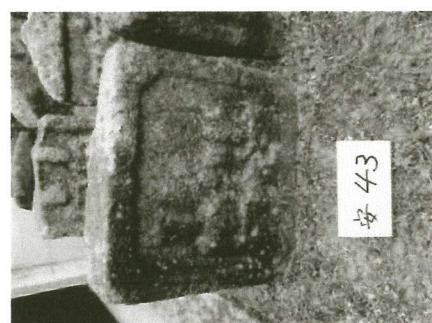
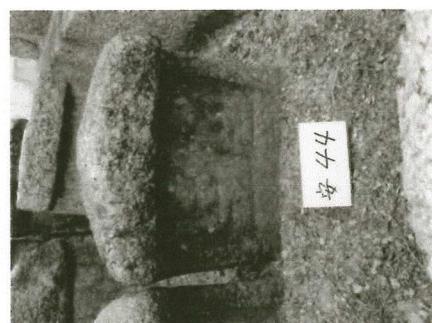
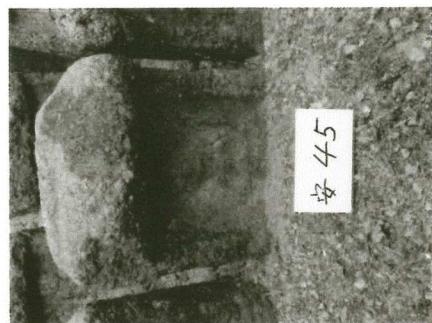
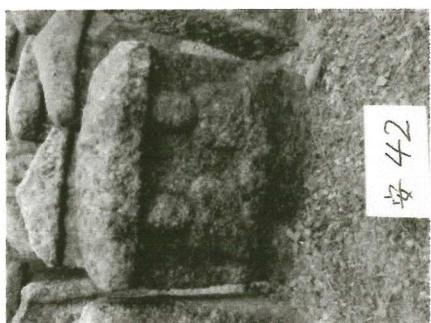
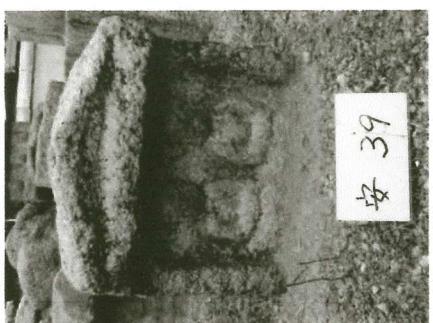
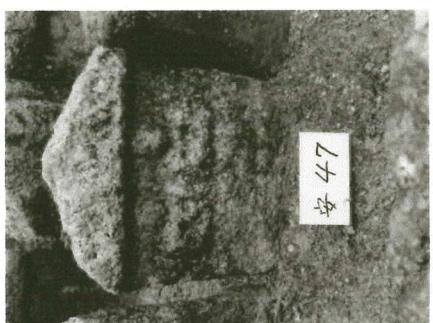


[図-2] お地蔵さん個体の写真

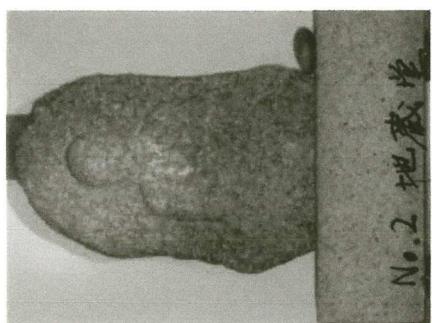
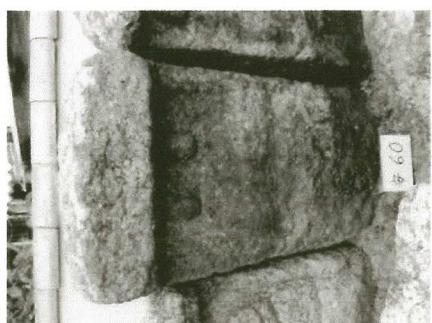
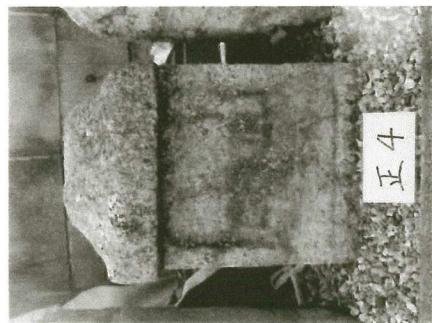
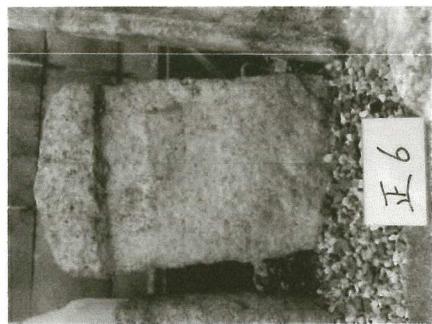
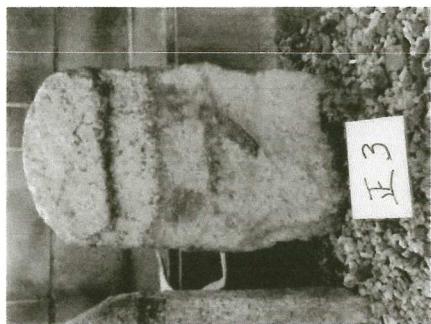
No.1・安楽寺跡の部



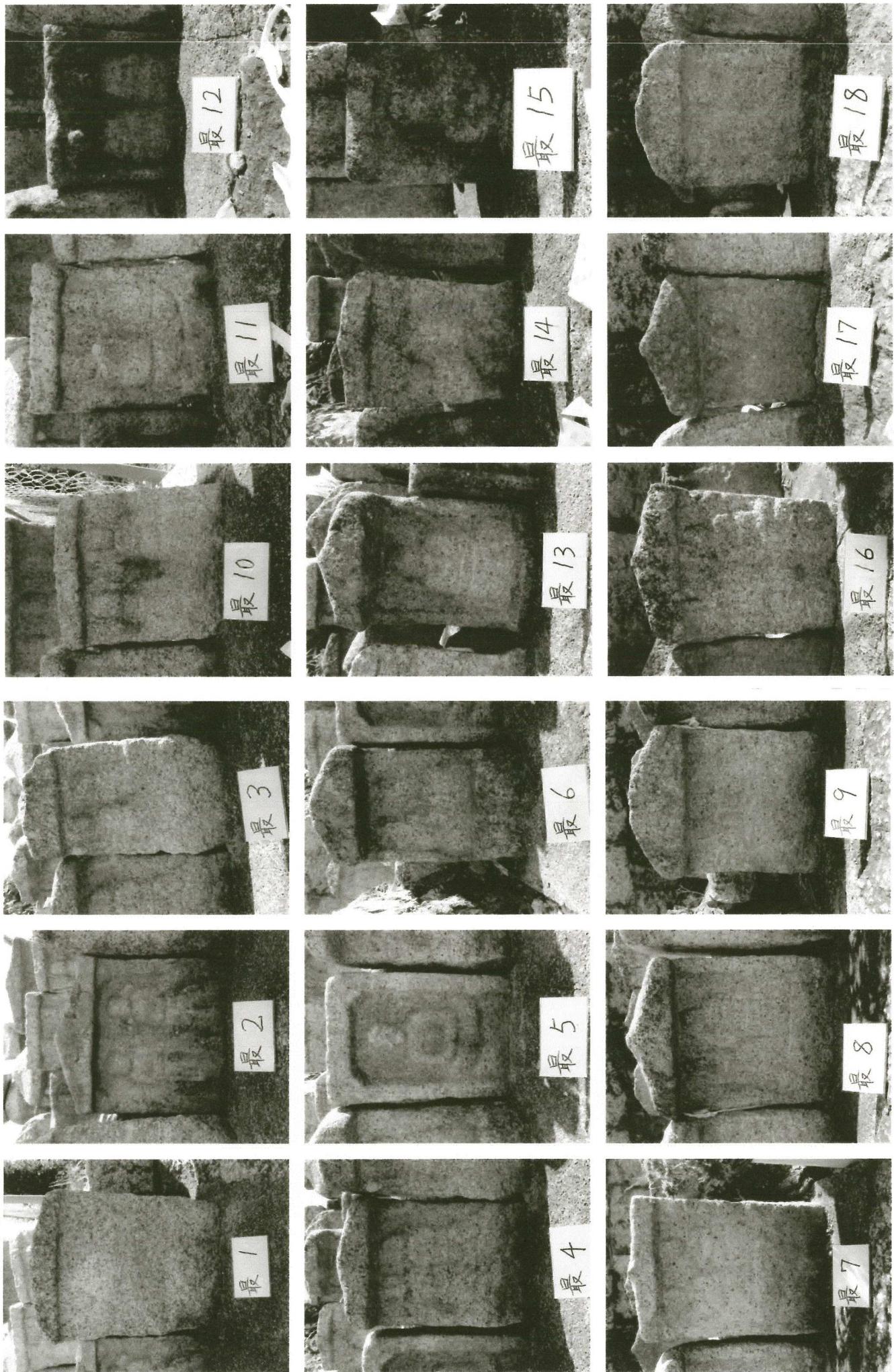


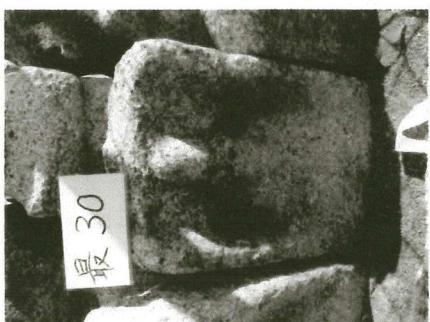
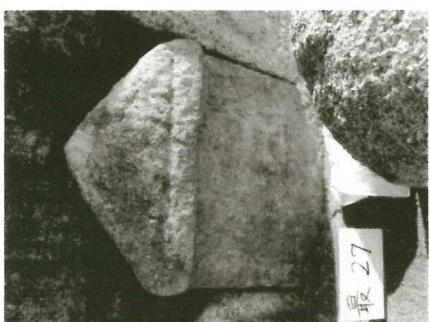
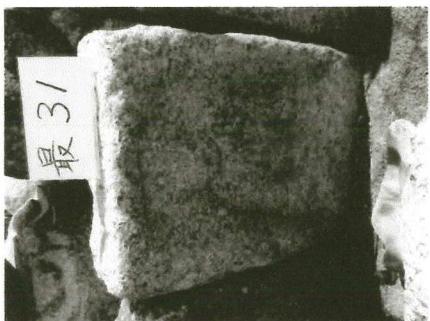


No.5・正福寺跡の部



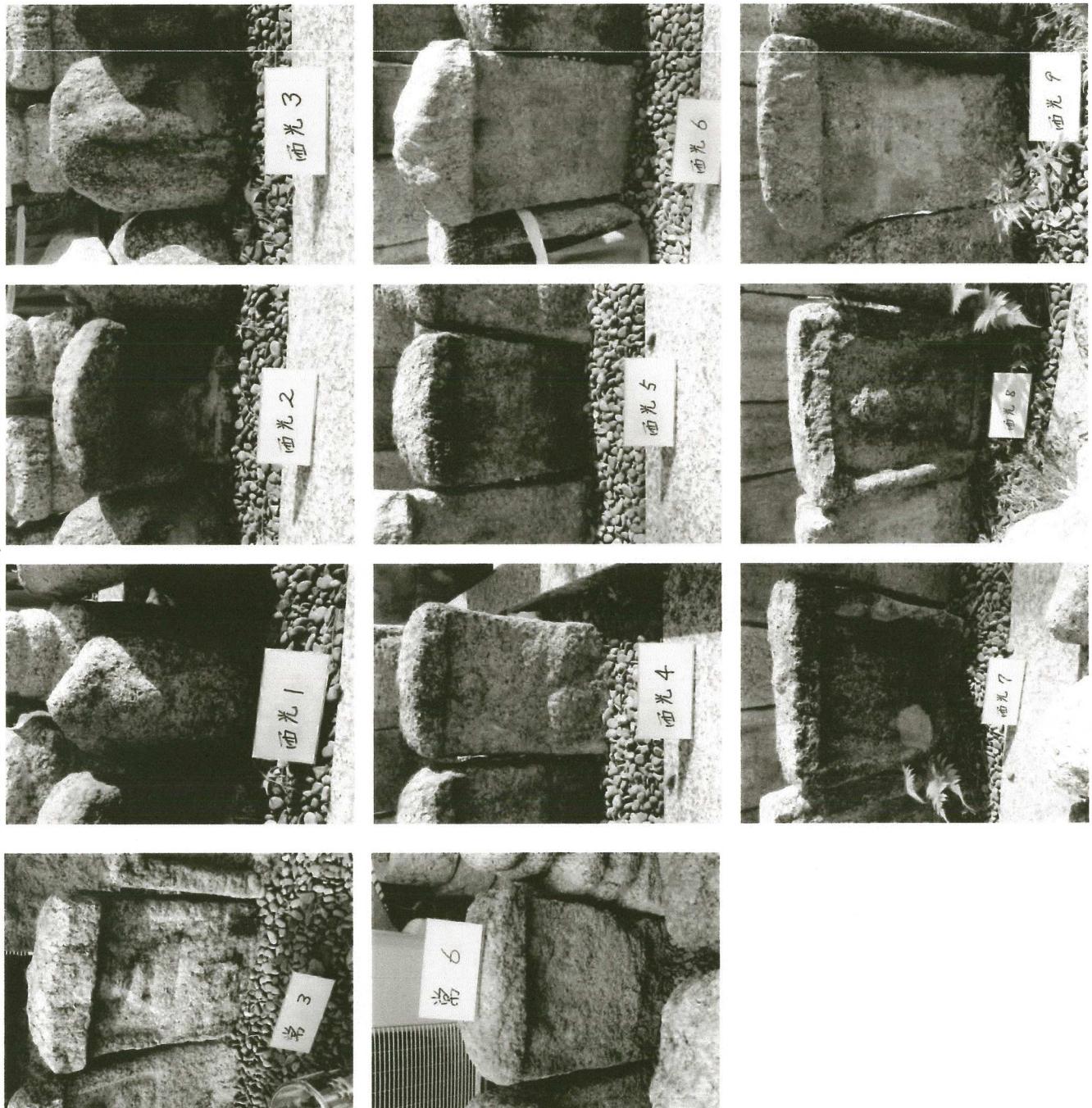
No.7・最明寺の部





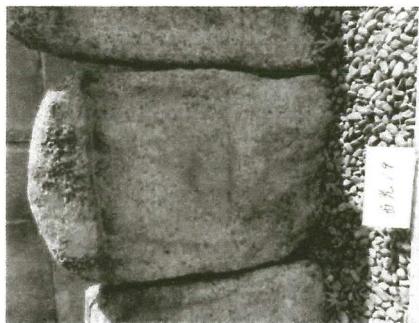


No. 19・西光寺の部



No. 14・常願寺の部

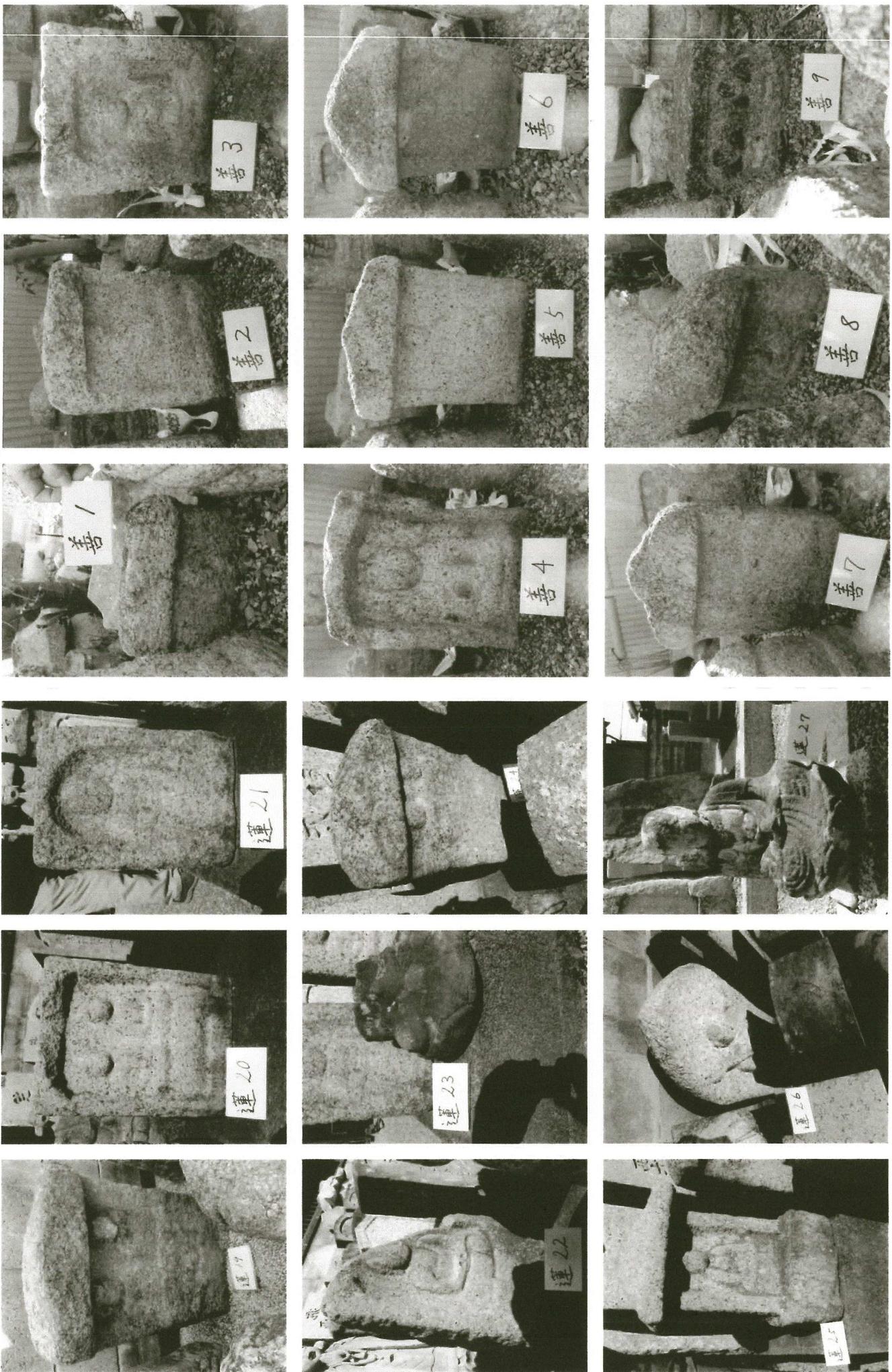




No.26・西蓮寺の部

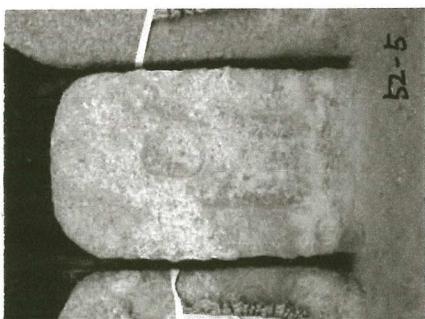
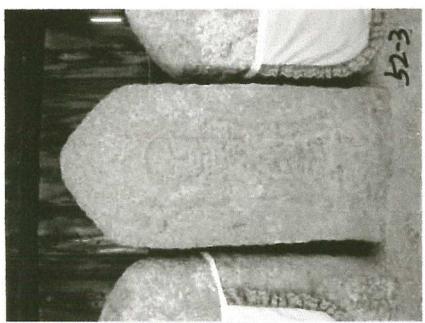


No.28・善福寺の部／No.34・西福寺の部





No.50・火屋墓地の部



墓地入口の六体地蔵尊

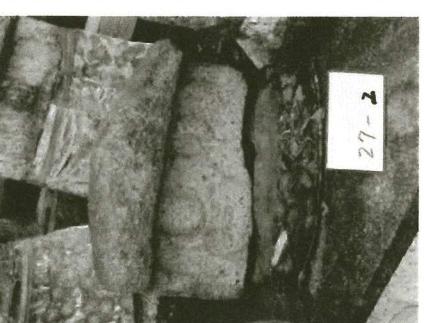
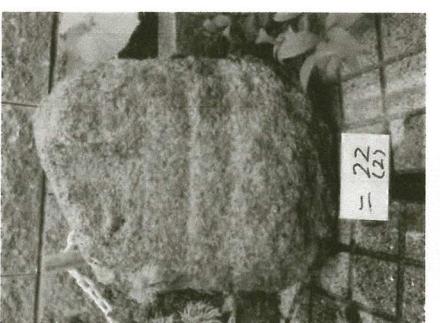
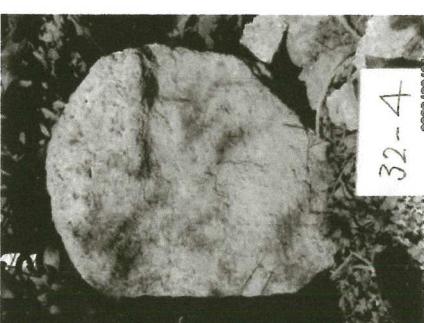
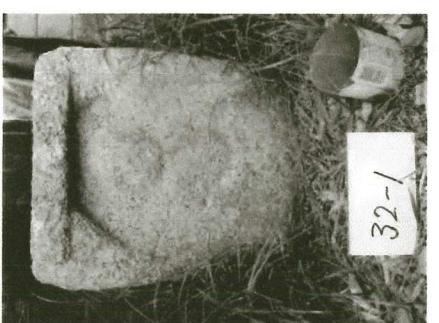


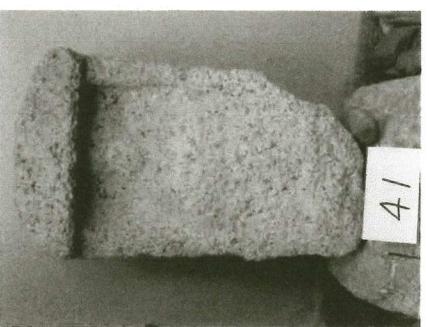
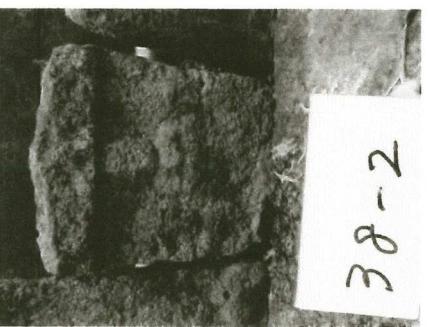
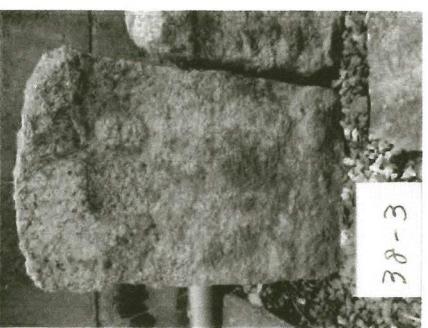
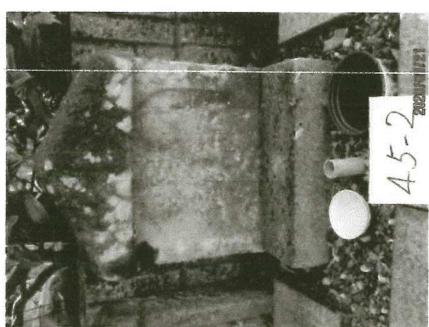
願善堂の地蔵尊

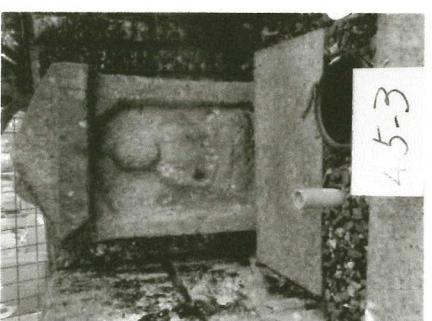
個人墓の地蔵尊

ニ丁目の部／三～六丁目の部

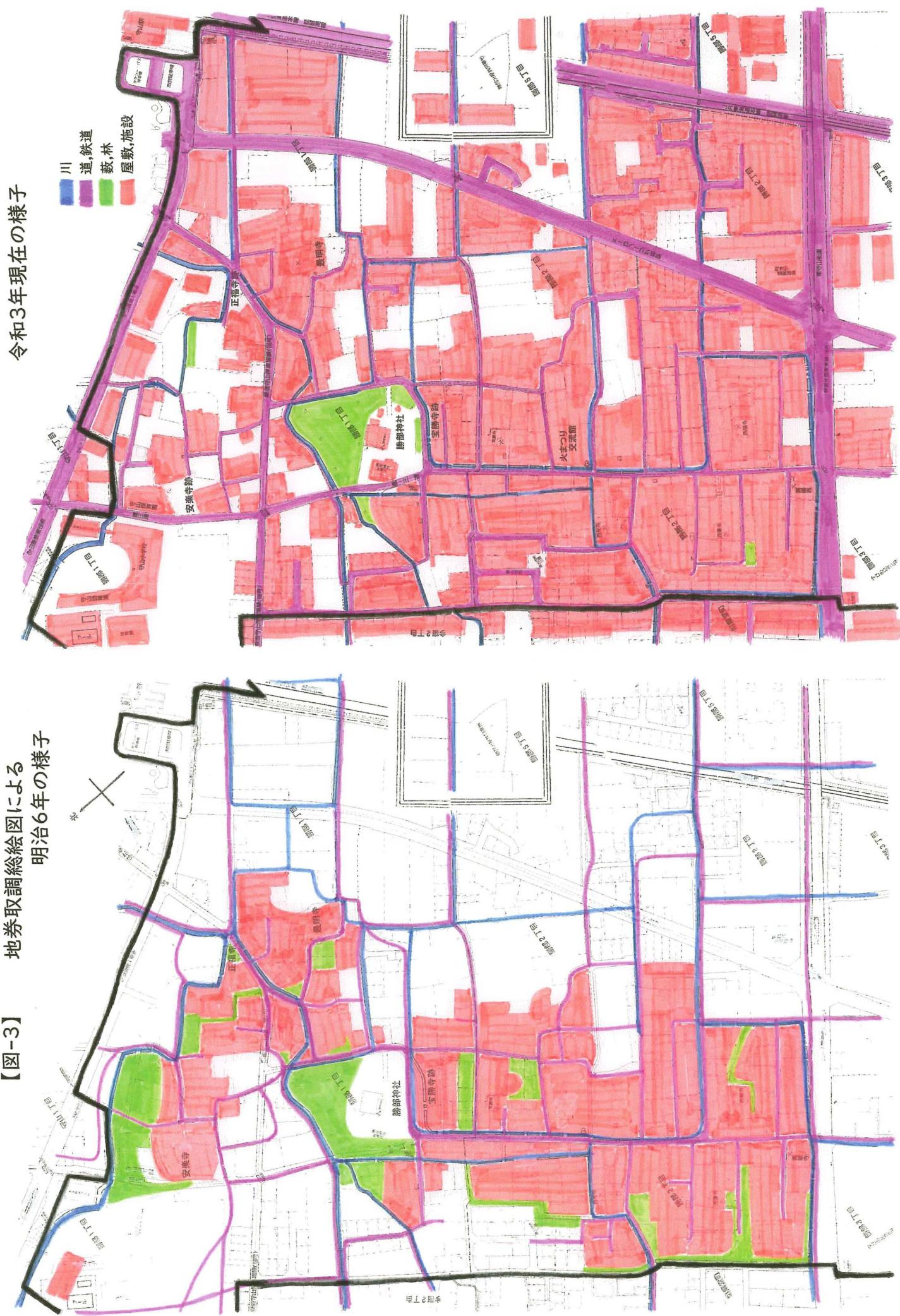








【図-3】 地券取調総絵図による
明治6年の様子



編 築 者 代表 小林 靖雄
副代表 舟橋 光義
石田 建藏
小島 武彦
小島 良和
小林 久幸
野々村 治雄
藤本 律男
山中 清輔

令和3年(2021年)8月

勝部の「お地蔵さん」 調査報告書

発 行 認可地縁団体 勝部自治会
滋賀県守山市勝部二丁目12番18号
編 集 勝部の文化伝え隊 歴史文化サロン